

高崎健康福祉大学大学院農学研究科
学生の確保の見通し等を記載した書類

令和3（2021）年3月

目 次

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	・・・ 3
(1) 定員確保の見通し	・・・ 3
1) 定員充足の見込み	
2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要	
3) 学生納付金の考え方	
(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	・・・ 9
1) 各種イベントの開催による広報	
2) Web をはじめとする各種媒体を通じた広報	
2. 人材需要の動向等社会の要請	・・・ 1 2
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	・・・ 1 2
(2) 上記「1」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	・・・ 1 4

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

1) 定員充足の見込み

日本私立学校振興・共済事業団私学振興事業本部の資料によると、私立大学の農学系大学院の近年の博士前期課程に関しては、入学者数は安定しており、充足率もほぼ90%程度の水準で推移している。また、文部科学省の学校基本調査のデータからは、全国の農学系学部を卒業した学生のうち概ね23%程度が大学院博士前期（もしくは修士）課程へ進学していることがわかっている。この大学院進学率は一時期漸減傾向にあったが、直近の5か年程度はほぼ同様の値で下げ止まりの様相となっており、今後も当面の間はこのような傾向が続くものと思われる。

一方、私立大学農学系大学院の博士後期課程に関しては入学者の数が定員数を下回る傾向にあり、上記資料によると近年の定員充足率は50%程度にとどまる。ただし、直近では入学者数、充足率ともに、低下傾向に下げ止まり感がある。また、博士前期（もしくは修士）課程から博士後期課程への進学率は10%程度で近年は安定している。

以上が農学系大学院修士課程、博士後期課程の定員充足率と進学率に関する傾向であるが、博士後期課程の場合は博士前期（もしくは修士）課程からの進学者とは別に社会人の入学者が一定数あり、全国の農学系大学院についてみると在学者の30%程度が社会人であることに留意する必要がある（文部科学省学校基本調査による）。とりわけ本研究科の場合、令和元年（2019年）9月に本学と群馬県との間で締結した「農学振興及び6次産業化推進に係る連携協定書」や、令和2年（2020年）6月に本学とJAグループ群馬との間で締結した「相互連携協力の推進に係る協定書」において人材育成を大きなテーマとしており、社会人大学院生の受け入れを念頭に置いたうえで大学院設置に関する「意見書」、「要望書」の提出を受けているところである（資料1「高崎健康福祉大学農学部地域連携等の状況」および資料2「地元自治体、農業界および関連産業界からの要請状況」参照）。したがって、こうした点も考慮に入れて定員数を設定した。また、次項で詳述する在学生および社会人へのアンケート調査を実施して定員設定の参考にした。

上記のような様々な要因を勘案し、定員充足の可能性を精緻に見極めた結果、以下のような定員数を決定した。後述する進学需要にかかるアンケート調査の結果にもあるとおり、この定員であれば、安定的かつ持続可能性をもって志願者を確保し、定員を充足させることができるものであると考えている。

高崎健康福祉大学大学院農学研究科の入学定員と収容定員

課程	博士前期課程	博士後期課程
入学定員	4名	2名
収容定員	8名	6名

2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要

① アンケート調査の方法と実施概要

本研究科の設置構想に基づき、定員設定の妥当性及び学生確保の見込みを客観的に担保するため、本学在学学生および社会人に対してアンケートによる調査を以下のように実施した。

a) 本学在学学生へのアンケート(資料3「在学学生アンケートの質問票およびパンフレット」参照)

本学の既存学部のうち健康福祉学部と薬学部にて在籍する全学生を調査対象とした。これら学部を対象とした理由は、健康福祉学部については農学部設置時より農福連携などによる学部間シナジー効果を期待し、そのための取り組みを行ってきたうえに、同学部には農学部のフードサイエンスコースと専門性が近い健康栄養学部が存在することによる。また、薬学部については、研究の基盤としての生物学が生命科学コースをはじめとする農学部の研究・教育分野と共通であることによる。アンケート調査は令和2年10月5日から10月23日までの期間に実施した。調査の方法は、webアンケートによって行い、対象となる学生に対して本学の学内利用者向け学習支援webサービス及びe-mailにより回答を呼びかけた。

b) 社会人へのアンケート(資料4「群馬県農政部へのアンケート質問票およびパンフレット」参照)

社会人として本研究科に入学する可能性が考えられる群馬県農政部職員(技術支援課、農業技術センター、蚕糸技術センター、水産試験場、畜産試験場及び林業試験場)を調査対象とした。調査は群馬県農政部に依頼し、上記の調査対象者に対して、質問事項と回答欄を記した調査用紙を用いた調査を行った。調査は令和2年10月27日～11月25日にかけて行い、調査対象137名のうち97名から回答が得られた。

② アンケート調査の解析結果(資料5「アンケート結果の概要」参照)

a) 博士前期課程への入学希望者について

本研究科博士前期課程は令和4(2022)年4月の開設を計画している。母体となる農学部の完成年度よりも一年前倒しでの開設であり、持続可能な学生確保の見通しだけではなく、特に初年度の志願者確保が重要となる。以下、志願者確保の見込みを初年度と2年目以降に分けて示す。

【開設初年度の入学生】

本学在学学生で、初年度における博士前期課程1年生の入学対象となるのはアンケート調査の完了時点(令和2年10月)において大学の学部3年生である。本学の学部3年生でアンケートに回答した者の総数は87名(健康福祉学部医療情報学科15名、同社会福祉学部18名、同健康栄養学科27名、薬学部薬学科24名)である。このうち、「現在、

本学で計画中の大学院農学研究科（博士前期（修士）課程・博士後期課程）について、「興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が1名、「興味がある」と答えた者が7名であった。また、「大学院農学研究科博士前期（修士）課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ進学したい」と回答した者はいなかったが、「条件が合えば進学したい」と回答した者が1名であった。これらのことから、大学院開設初年度について博士前期課程への進学に興味がある、もしくは進学の意味が一定程度ある者が学内に既に存在することがわかった。調査対象の3年生の回答者は84名で、回答率は23%程度に過ぎないことを考えれば、進学を考えている者がさらに多くいることが想定される。また、群馬県農政部職員を対象とした社会人入学の意向調査アンケートでは「条件が合えば進学したい」とする者が5名おり、社会人の入学も一定程度期待できる。

今回のアンケート調査では、在学生向け、群馬県農政部職員向けいずれにおいても回答者の多様な意見を聞くための自由記載欄を設けた。そうした意見の中には、「条件が合えば進学したい」の「条件」として研究内容や学費（特に減免制度や奨学金）などの詳細な情報を求めるものが複数あった。このことに関して、後述するように設置認可申請以降は大学院農学研究科について積極的かつ詳細な情報発信を行う予定であり、進学に向けて理解を深めてもらうよう努力していきたい。

以上のことを総合し、本研究科の博士前期課程では開設初年度である令和4年度入学者について、十分な志願者を確保し4名の定員を充足することが可能であると判断した。

【開設2年目以降の入学者】

開設2年目以降は本学他学部や他大学、社会人の志願者に加えて、本学農学部卒業生が志願者候補となる。本学在学生で、開設2年目に入学志願者の候補となるのはアンケート調査の完了時点（令和2年10月）で学部2年生と社会人である。調査対象となった本学の学部2年生でアンケートに回答した者の総数は152名（健康福祉学部医療情報学科24名、同社会福祉学科20名、同健康栄養学科21名、薬学部薬学科16名、農学部生物生産学科71名）である。このうち、「現在、本学で計画中の大学院農学研究科博士前期（修士）課程・博士後期課程について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が8名、「興味がある」と答えた者が30名であった。両者を合わせた38名のうち農学部2年生が33名であった（他は薬学部4名、健康福祉学部1名）。また、「大学院農学研究科博士前期（修士）課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ進学したい」と回答した者はいなかったが、「条件が合えば進学したい」と回答した者は23名に及んだ。このうち22名が農学部2年生であった。これらのことから、開設2年目について博士前期課程への進学に興味がある、もしくは進学の意味が一定程度ある者が学内に相当数存在し、その多くが農学部在学生であることがわかった。

さらに、開設3年目に入学志願者の候補となるのはアンケート調査の完了時点（令和

2年10月)で学部1年生と社会人である。調査対象となった本学の学部1年生でアンケートに回答した者の総数は205名(健康福祉学部医療情報学科20名、同社会福祉学科23名、同健康栄養学科29名、薬学部薬学科33名、農学部生物生産学科71名)である。このうち、「現在、本学で計画中の大学院農学研究科博士前期(修士)課程・博士後期課程について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が11名、「興味がある」と答えた者が47名であった。両者を合わせた58名のうち農学部1年生が48名であった(他は薬学部4名、健康福祉学部6名)。また、「大学院農学研究科博士前期(修士)課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ進学したい」と回答した者が2名、「条件が合えば進学したい」と回答した者は30名に及んだ。これら31名のうち30名が農学部1年生であった。これらのことから、開設3年目について博士前期課程への進学に興味がある、もしくは進学の意味が一定程度ある者が学内に相当数存在し、その多くが農学部在学学生であることがわかった。

これらの結果から、開設2年目以降については農学部在学者を中心に学内からの大学院志願者が安定的かつ十分な人数存在し、さらに、前述の群馬県職員をはじめとする社会人の志願者も見込めることから、持続的な定員充足が可能であると判断した。

b) 博士後期課程への入学希望者

本研究科博士後期課程は同前期課程と同じく令和4(2022)年4月の開設を計画している。母体となる農学部の完成年度よりも一年前倒しでの開設であり、特に初年度と開設2年目の志願者確保が重要となる。以下、志願者確保の見込みを初年度と開設2年目および開設3年目以降に分けて示す。

【開設初年度の入学生】

開設初年度の志願者候補となるのは在学学生アンケート調査時点(令和2年10月)での大学院博士前期課程1年生、薬学部薬学科5年生と社会人である。今回、本学在学学生で調査対象となったのは薬学部薬学科5年生でそのうちの11名から回答が得られた。このうち、「現在、本学で計画中の大学院農学研究科(博士前期(修士)課程・博士後期課程)について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が1名、「興味がある」と答えた者が1名であった。また、「大学院農学研究科博士後期(博士)課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ進学したい」もしくは「条件が合えば進学したい」と回答した者はいなかった。ただし、「どちらとも言えない」と回答した者が3名存在した。このことは、本学薬学部在学学生のなかには農学研究科博士後期課程に関心を持つ者が一定数存在することを示している。今回は調査できなかった本学大学院在学学生とあわせ、今後、詳細かつ具体的な情報を提供していきたい。

一方、令和元年度の文部科学省学校基本調査によると農学系大学院博士課程在学学生に占める社会人の比率は30%に達しており、本学農学研究科博士後期課程の志願者数

を考えるうえで重要である。今回、群馬県農政部職員を対象とした社会人入学の意向調査アンケートでは、回答があった97名のうち「現在、本学で計画中の大学院農学研究科（博士前期（修士）課程・博士後期課程）について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が6名、「興味がある」と答えた者が41名であった。さらに「条件が合えば進学したい」とする者が11名におよび、社会人入学への関心と意欲の高さが窺われた。

以上の結果から、開設初年度において入学志願者を十分に確保し、定員（2名）を充足することは可能であると判断した。

【開設2年目の入学生】

開設2年目の志願者候補となるのは在学生アンケート調査時点（令和2年10月）での学部4年生と社会人である。調査対象となった本学の学部4年生でアンケートに回答した者の総数は42名（健康福祉学部医療情報学科6名、同社会福祉学科8名、同健康栄養学科14名、薬学部薬学科14名）である。このうち、「現在、本学で計画中の大学院農学研究科（博士前期（修士）課程・博士後期課程）について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が3名、「興味がある」と答えた者が8名であった。また、「大学院農学研究科博士後期（博士）課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ進学したい」と回答した者はいなかったが、「条件が合えば進学したい」と回答した者が5名であった。この5名はいずれも健康福祉学部健康栄養学科もしくは薬学部薬学科の学生であり、本学既設大学院の修士課程を修了後に農学研究科博士後期課程に進学して研究を続けることを想定していると思われる。既に述べたように健康福祉学部や薬学部には、「食」や「生命」といったキーワードのもと農学部および農学研究科と専門性が近い分野が存在し、学生が自らの学修指向を意識する中で農学研究科への関心を高めていることが想像できる。

上記に加えて、社会人の入学志願者も引き続き確保できると考えられるので、開設2年目についても入学志願者を十分に確保し、定員（2名）を充足することは可能であると判断した。

【開設3年目以降の入学生】

開設3年目の志願者候補となるのは在学生アンケート調査時点（令和2年10月）での学部3年生と社会人である。本学の学部3年生でアンケートに回答した者の総数は87名（健康福祉学部医療情報学科15名、同社会福祉学科18名、同健康栄養学科27名、薬学部薬学科24名）である。このうち、「現在、本学で計画中の大学院農学研究科（博士前期（修士）課程・博士後期課程）について、興味がありますか」の問いに対して「大変興味がある」と答えた者が1名、「興味がある」と答えた者が7名であった。また、「大学院農学研究科博士後期課程への進学を希望されますか」の問いに対しては「ぜひ

進学したい」と回答した者はいなかったが、「条件が合えば進学したい」と回答した者が1名であった。これらのことから、博士後期課程への進学に興味がある、もしくは進学の意味が一定程度ある者が学内に既に存在することがわかった。調査対象の3年生の回答者は84名で、回答率は23%程度に過ぎないことを考えれば、潜在的な志願者数はさらに多い可能性が高い。また、開設4年目以降の志願者候補となる学部1、2年生についてみると、両学年をあわせると「ぜひ進学したい」と回答した者が1名、「条件が合えば進学したい」と回答した者が33名であった。このことは、農学部在学学生を中心に、博士後期課程に強い関心と進学意欲を持つ者が相当数存在することを物語っている。

上記に加えて、社会人の入学志願者も引き続き確保できると考えられるので、開設3年目以降についても入学志願者を十分に確保し、定員（2名）を充足することは可能であると判断した。

3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については本学の既設大学院の入学金、授業料及び実験・実習料に倣って設定した。本学既設大学院において実験・実習料は、実験・実習をとまなう学修内容をもつ研究科・専攻等において徴収しており、本研究科のカリキュラムもそれにあたることから徴収することとして設定した（資料6「本学既設大学院および農学研究科（予定）の学生納付金」参照）。この学生納付金額については、近隣競合大学との比較においても、それらとほぼ同等であり妥当な金額であると考え（資料7「他大学大学院および本学農学研究科（予定）の初年度納付金の比較」参照）。

なお、本学の既設大学院では、職業を有している等の事情により通常の修了に係る年限では履修が困難な学生を対象に、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することが出来る「長期履修制度」を設けており、本研究科にもこれを導入する。本学の「長期履修制度」の概要は以下のとおりである。

対象者：①職業を有しており、標準修業年限での修了が困難である者

②家事、育児、介護等の事情があり、標準修業年限での修了が困難である者

③その他、長期履修の適用に足る事由を研究科委員会において認められた者

長期履修期間：原則として1年とし、長期履修を適用せずに在学する期間を通算して、大学院学則第4条に規定する最長在学年限を超えることはできないものとする。

授業料の納付：(1)博士前期課程1年目及び博士後期課程1、2年目については、長期履修を適用しない学生と同様に納付する。

(2)博士前期課程2年目、博士後期課程3年目以後については、年額を四

期に分けて納付する。

- (3)長期履修学生が、許可された修業年限の短縮を希望し認められた場合には、短縮することによって生じた授業料の差額を、別に定める期間内に納付する。

(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学は平成31年度に農学部を開設して以降、大学院農学研究科の設置をめざすことを想定し、農学系分野の高度な研究の広報活動を行い、社会全般への認知度向上をはじめ、大学院生の確保につなげるべく、以下の取り組みを推進してきた。これらは、第一義的には農学部の取り組みを訴求するものであるが、将来的な大学院研究科の設置を見越して実施したものである。

今後、本研究科設置認可申請後は、これまで以上に計画的かつ積極的に広報活動を行うことによって、更なる認知度の向上を図り、具体的な学生確保につなげる予定である。

1) セミナー・講演会等のイベントの開催による広報

学内および社会全般に対して、まずは農学部の認知度向上と農学研究への理解を深めてもらうことを図るべく、セミナー・講演会等の各種イベントを開催した。具体的な事例としては、以下のとおりである。(資料8「セミナー・講演会等のポスターおよびパンフレット」参照)

① 公開講座

本学では教育研究の成果を社会に還元するため、一般市民対象の公開講座を従前から開講しており、令和元年度は農学部の開設にあわせて農学部教員による研究成果と今後の研究展開とを紹介をおこなった。

「令和元(2019)年度 高崎健康福祉大学公開講座 (ぐんま県民カレッジ連携講座)」

日 時：令和2年2月8日(土) 13:00～

会 場：高崎健康福祉大学10号館201教室

テーマ：地域に根ざす健大農学部

講演①：「群馬県特産物の新たな活用法」外山吉治氏(高崎健康福祉大学農学部)

講演②：「健大農学部が目指す新しいスマートグリーンハウス」石神靖弘氏(高崎健康福祉大学農学部)

講演③：「日本最古の加工食品、漬物の科学」松岡寛樹氏(高崎健康福祉大学農学部)

講演④：「世界の日本食ブームー海外進出と輸出ー」齋藤文信氏(高崎健康福祉大学農学部)

② 農学部セミナー

農学部が中心となり、主として本学学生および教職員向けに実施している。農学部教員ならびにゲストスピーカーによる最新の研究成果の紹介のほか、人材育成を視野に入れた群馬県との連携協定に基づいて県職員による農政部の事業と職員採用事情についての紹介も行った。

令和元年度：

第1回農学部セミナー「日本も世界も一緒に元気になる“農”の取り組み」

日時：2019年5月21日（火）16時30分～18時00分

場所：高崎健康福祉大学10号館 2階202号室

発表1：「コロンビアにおける稲作スマート農業の実践と今後の展望 ―日本の最先端農業 IoT技術の実施試験を例に一」

講演者：小川 諭志（CIAT、国際熱帯農業センター）

発表2：「～農村から世界の未来を育てる～」

講演者：矢島 亮一（NPO法人自然塾寺子屋）

発表3：「世界とつながる日本 ―マレーシアサバ州におけるアグロフォレストリーの取り組み JIRCAS 国際プロ ―」

講演者：荒木 陽一（高崎健康福祉大学）

第2回農学部セミナー・国際交流センター共同開催「経験から学ぶ「グローバル人材」
「Life and Education Across the World : A Personal Journey through Academic Life」

～海外での生活と教育：研究者としての体験から～

日時：2019年6月3日（月）16時30分～17時45分

場所：高崎健康福祉大学10号館205講義室

講演者：Dr. Parinaz Rahimzadeh (University of Maine、USA)

第3回農学部セミナー・第3回栄養生理学特別セミナー共同開催「乳の科学は奥が深い！」

日時：2019年11月1日（金）16時30分～18時00分

場所：高崎健康福祉大学6号館101講義室

講演者：清水 誠（東京大学名誉教授、東京農業大学客員教授）

第4回農学部セミナー・キャリアサポートセンター共同開催「群馬の農業を応援してみませんか」

日時：2019年11月12日（火）16時30分～18時00分

場所：高崎健康福祉大学10号館201教室

講演者：吉野 努（群馬県農政部長）

第5回農学部セミナー「農家のおじさんが育てた小麦で作ったパンを見たことありますか？～難しいからこそおもしろい。麦の地産地消に挑む！～」

日時：2020年1月14日（金）13時00分～14時30分

場所：10号館203講義室

講演者：高橋 肇（山口大学農学部教授）

令和2年度

第1回農学部セミナー「求む！ 群馬農業の応援団！～皆さんは、まだまだ、群馬農業の魅力を知らない～」

日時：2020年10月29日（木）16時30分～18時00分

場所：10号館201講義室

講演者：倉澤政則（群馬県農政部・副部長）

第2回農学部セミナー「施設園芸におけるスマート農業技術 ～令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果から～」

日時：2020年12月17日（木）16時30分～18時00分

場所：10号館201講義室

講演者：大出浩睦（株式会社誠和・社長）

③ 群馬県と高崎健康福祉大学との共同研究に向けた交流会

令和元年9月に群馬県と本学とで締結した連携協定にもとづき、共同研究の実施や大学院生の受入を念頭に置いた人材育成のために、双方の研究内容や課題等についての情報交換を目的として令和2年9月に第一回を開催し、今後も定期的を開催することを計画している。

日時：2020年9月8日（火）13時20分～16時45分

場所：高崎健康福祉大学10号館201教室

発表① コンニャクの育種（廣瀬竜郎・高崎健康福祉大学農学部）

発表② 蚕の育種（藤本正太・高崎健康福祉大学農学部）

発表③ 温室制御（石神靖弘・高崎健康福祉大学農学部）

発表④ イチゴの環境制御の取組（田島主任・群馬県農業技術センター）

発表⑤ キャベツ圃場におけるセンシングの取組（岡村主任・群馬県農業技術センター）

発表⑥ リモートセンシング（大政謙次・高崎健康福祉大学農学部）

④ 「高校専門教育講座」への協力

本学農学部では設置年度である令和元年度から、群馬県教育委員会の主催による主として農業科担当の高等学校教員の研修会である「高等専門教育講座」の実施に協力して

おり、その場で本学教員の研究成果を含めた様々な分野の最新の研究について紹介している。

令和元年度研修講座「高校専門教育研修講座」

講義・実習「食・農・バイオに関する最新知識とその技術1」

日時：11月25日（月）9時50分～16時20分

場所：高崎健康福祉大学10号館

講師と講義内容：

荒木陽一（高崎健康福祉大学農学部）「イチゴの最新の話題」

廣瀬竜郎（高崎健康福祉大学農学部）「作物ゲノム編集育種の技術と課題」

川崎秀樹（高崎健康福祉大学農学部）「昆虫ホルモンと遺伝子から見る昆虫の変態」

令和2年度研修講座「高校専門教育研修講座」

講義・実習「食・農・バイオに関する最新知識とその技術」

日時：10月16日（金）12時30分～16時40分

場所：高崎健康福祉大学10号館205教室

講師と講義内容：

廣瀬竜郎（高崎健康福祉大学農学部）「ゲノム情報を生かしたコンニャク育種の展望と課題」

吉積毅（高崎健康福祉大学農学部）「最先端の分子育種を支える周辺技術」

3) Webをはじめとする各種媒体を通じた広報

平成31年に設置した農学部においては、設置構想段階からWebサイトを開設して農部の理念や概要の紹介・発信を行っている。また、SNSを活用したユーザーとの双方向の情報共有も図っている。Web以外の媒体としては、農学部の毎年の各種活動を取りまとめた発信するための冊子「高崎健康福祉大学農学部年報」を発行しているほか、各種紹介用のパンフレットを作製している。このような実績を生かし、本研究科においても、設置認可申請後からは積極的な広報活動を展開していく。

その他にも、本学入試広報センターならびに農学部教職員による学校紹介や進路説明会等において、学部の紹介に加えて本研究科の開設についての広報を展開し、学生の確保に向けた認知向上に資する取り組みを行う。なお、各種広報活動に関しては、「設置認可申請予定」である旨を明記し、内容については変更の可能性があることを周知徹底したうえで広報を行うことを付記する。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的

本研究科の母体である本学農学部生物生産学科は、生命科学、作物園芸システムやフー

ドサイエンスといった自然科学領域と、アグリビジネスのような社会科学領域を学修できるという特色を有する。これは、総合科学としての農学の特徴を踏まえつつ、栽培、育種、農業生産技術、食品加工、流通など広い視野を有して全体を俯瞰できる能力を習得した人材の育成を目指すものである。本研究科においてもその理念を共有し、複雑さと深刻さを増す食と農に関わる諸課題に対応するため、学部レベルを超えたより高度な知識・技能を有する高度専門職業人、研究者を養成する。本研究科の博士前期課程および同後期課程において養成を目指す人材像の柱となる共通理念は次のようになる。

1) 農業と食品産業のイノベーション創出に貢献できる人材を養成する

高齢化と人口減少が進むわが国は農業にとって厳しい環境であるが、農業の継承と農産物の安定供給や、高品質で安全・安心な食品の提供が、今後の国土保全や国民の安全確保と健康増進に必須であることは疑う余地がない。そのため、本研究科では幅広い専門知識を基盤に情報収集力、論理的思考力、課題設定能力、企画力、実行力を備えて、農業や食品産業のイノベーション創出に貢献できる人材を養成する。

2) ローカルとグローバル双方の視野から地域と世界の問題に解決貢献できる人材を養成する

近年、経済・社会のグローバル化が急速に進行し、そこで活躍するためには国際的な幅広い視野を持つ必要がある。また既に述べたように農業を取り巻く諸課題は世界的なもので、一国の枠に収まるものではない。しかし、グローバルな視点にのみ固執すると、農業という産業のもう一つの本質である地域ごとのローカルな固有性や、経済原理のみでは評価できない価値を見失いかねない。したがって、「国際的視野で考えてローカルに行動する」こと、あるいは「ローカルで考えて国際的に行動する」ことが今後ますます重要になる。本研究科では食と農に関わる国内外の諸問題の解決に、グローバルとローカルの双方の視点を持って国際的に活躍できる人材、それを通じた地域活性化の実現にリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

3) 食と農に関わる学術の発展に貢献する人材を養成する

食と農に関わる諸課題は近年ますます多様化・複雑化・深刻化しており、従来の学問成果のみでは十分に対応できなくなりつつある。先に述べたように、スマート農業やゲノム育種など新たに勃興した学問領域がその支えとなる技術も現れている。こうした新たな学問領域を切り開く人材は世界的に希求されており、本研究科では学際的で高度な専門教育と研究指導によりそのような人材も含めて、新たな時代の食と農に関わる学問領域の発展に貢献できる人材を養成する。

4) 高度専門職業人あるいは研究者としての知識・スキルをもった人材を養成する

本研究科を修了した大学院生は、実社会において食と農に関わる諸問題に対応する高度専門職業人、開発研究や高度な学問的研究に関わる研究者として活躍することが期待される。本研究科では、そうした人材が備えるべき専門知識と技能を修得し、最先端の学問成果を駆使して問題解決に貢献する能力、新たな知見を得て、その成果を世界

に発信するためのスキル（論文執筆能力、プレゼンテーション能力、討論の能力等）を有する人材を養成する。

以上の共通理念を反映しつつ博士前期課程、博士後期課程それぞれにおいて養成を目指す人材像を示すと次のようになる。

【博士前期課程】

博士前期課程においては、食と農に関わる諸問題を多様な観点から捉え、その解決に専門的かつ学際的なアプローチを駆使して取り組むことのできる人材の養成を目的とする。より具体的には、高度な専門的知識とスキルを身につけ食と農の問題の解決のための国際的な活躍、食と農に関わる様々な企業・公共団体ならびに農業関連団体での活躍、あるいは地域社会の活性化への貢献など、実社会において食と農の高い専門知識や能力が求められる職務を遂行する人材を養成する。加えて、さらに高度な研究に取り組むために博士後期課程へ進学し、より先端的な研究を志す人材を養成する。そして、それらのいずれにおいても課題解決に寄与するのみならず、リーダーシップを発揮して主体的に取り組む人材の養成を目指す。

【博士後期課程】

博士後期課程においては、博士前期課程の学修で身に付けた学識と研究能力、あるいは実務で得た知識・技能・経験を基盤とする。そのうえで、研究者として国内外の大学や公的研究機関で、食と農に関わる国際的な水準の創造的研究を行うことで学問・科学の発展に貢献できる人材、民間企業等の研究部門等で活躍し、農業および食品産業の振興・発展や人類の健康と幸福の増進に貢献する人材、自然科学及び社会科学の両側面から食と農を中心とした地域活性化に資する研究や実践に取り組むことのできる人材を養成する。そして、それらいずれにおいても食と農に関わる諸課題の解決に必要となる新奇で独創的な知見や技法を発見・開発することのできる人材の養成を目指す。

(2) 上記「(1)」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 地元自治体、農業界および関連産業からの要請（資料2「地元自治体、農業界および関連産業界からの要請状況」を参照）

上記の「1」で述べた高度な知識・技能を有した高度専門職業人や研究者を養成することに対し、地元自治体や農業団体および食品関連企業から強い期待が寄せられており、本研究科の設置を要望する群馬県からの意見書、JA グループ群馬からの要望書、群馬県食品工業会からの要望書が出されている。このように多数の要望書が地元自治体、農業界および関連産業界から出されることは本研究科における人材の養成が社会的、地域的な人材需要を踏まえたものであることを示している。

2) 農学系大学院修了者の就業動向

社会的な人材需要の動向は大学院修了者の就業動向に客観的かつ端的に表れる。そこで、以下に令和元年度の文部科学省学校基本調査のデータを使った人材需要の分析結果について述べる（資料9「農学系大学院修了者の就業動向」参照）。

① 博士前期（もしくは修士）課程修了者

平成31年3月に全国の農学系大学院博士前期（もしくは修士）課程を修了して就業した者は3,228名で、そのうちの約44%が「製造業」に就き、産業別で最大の就業先となっている。そのほかでは約11%を占める「公務」と約10%の「学術研究，専門・技術サービス業」が主な就業先である。「製造業」の内訳では「食料品・飲料・たばこ・飼料製造業」と「化学工業，石油・石炭製品製造業」とで約73%を占めており、農学系大学院博士前期課程修了者の多くが製造業の、特に食品や化学関係の企業に就職していることがうかがわれる。なお、同時期の農学系学部卒業者（12,706名）では「製造業」は最も多いものの約22%に過ぎず、「卸売業，小売業」約18%、「公務」約11%、「学術研究，専門・技術サービス業」約10%などに分散している。一方、職業別にみると博士前期課程修了者の約70%は「専門的・技術的職業従事者」であり、その内訳では約40%が「製造技術者」（開発を含む）で最多で、次いで「研究者」28%、「農林水産技術者」12%となっている。こうした結果からは、農学系の博士前期課程修了者の多くが食品や化学関係の製造業の職場で、開発や製造に関わる技術者やいわゆる研究職として働いている実態が浮かび上がってくる。このような傾向はここで述べた令和元年度のみでなく少なくとも最近の10年間以上はほぼ変わっていない。したがって、上記「1」に述べた本研究科博士前期課程における人材養成の目的としての「高度な専門的知識とスキルを身につけ食と農の問題の解決ための国際的な活躍、食と農に関わる様々な企業・公共団体ならびに農業関連団体での活躍、あるいは地域社会の活性化への貢献など、実社会において食と農の高い専門知識や能力が求められる職務を遂行する人材」を育成することは社会的な人材需要に適合していると考えられる。

② 博士後期課程修了者

平成31年3月に全国の農学系大学院博士後期（もしくは博士）課程を修了して就業した者は576名で、産業別ではその約36%は「教育，学習支援業」に、次いで約25%が「学術研究，専門・技術サービス業」に就いており、両社で約61%を占めている。前者の内訳の約81%は「学校教育」であり実体としては大学教員が中心と思われる。また、後者の約75%は「学術・開発研究機関」となっている。一方、職業別では、実に約91%が「専門的・技術的職業従事者」として就業しており、内訳をみると約54%が「研究者」で占められる。つまり、大学院博士後期課程修了者の多くは大学や研究機関等で研究者として就業していることがわかる。このような傾向はここで述べた令和元年度のみでなく少なくとも最近の10年間以上はほぼ変わっていない。したがって、上記「1」に述べた本研究科博士後期課程における人材育成の目的である「研究者として国内外

の大学や公的研究機関で、食と農に関わる国際的な水準の創造的研究を行うことで学問・科学の発展に貢献できる人材、民間企業等の研究部門等で活躍し、農業および食品産業の振興・発展や人類の健康と幸福の増進に貢献する人材、自然科学及び社会科学の両側面から食と農を中心とした地域活性化に資する研究や実践に取り組むことのできる人材」を育成することは社会的な人材需要に合致していると考えられる。

<以 上>

高崎健康福祉大学大学院農学研究科 学生の確保の見通し等を記載した書類 (資料)

目次

1. 資料1 高崎健康福祉大学農学部地域連携等の状況
2. 資料2 地元自治体、農業界および関連産業界からの要請状況
3. 資料3 在学生アンケートの質問票およびパンフレット
4. 資料4 群馬県農政部へのアンケート質問票およびパンフレット
5. 資料5 アンケート結果の概要
6. 資料6 本学既設大学院および農学研究科（予定）の学生納付金
7. 資料7 他大学大学院および本学農学研究科（予定）の初年度納付金の比較
8. 資料8 セミナー・講演会等のポスターおよびパンフレット

群馬県における農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定

群馬県（以下「甲」という。）と高崎健康福祉大学（以下「乙」という。）は、相互の取組を強化するため、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、農業振興及び6次産業化推進に係る技術の発展、技術的課題の解決とそれに基づいた地域貢献を図ることを目的とする。なお、6次産業化とは、一次産業としての農林水産業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業の総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組をいう。

（連携事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、相互に情報及び意見の交換に努めるとともに、次の各号に掲げる事項について、連携して取組を進めるものとする。

- （1）農業振興及び6次産業化推進の技術的な課題解決のための研究・開発に関すること。
- （2）研究成果を活用した農業振興及び6次産業化推進に関すること。
- （3）農業振興及び6次産業化推進を担う人材育成に関すること。
- （4）研究施設の相互利用に関すること。
- （5）その他、本協定目的遂行上必要なこと。

2 甲及び乙は、連携して取り組んだ第1項各号に掲げる事項について、計画、役割分担、成果の取扱い、今後の推進方法等に関し、定期的に協議を行うものとする。

（経費分担）

第3条 前条の場合における甲及び乙それぞれに生じた経費については、原則として、各自が負担するものとする。ただし、甲及び乙の協議により別に定めがある場合は、この限りではない。

（協定の見直し）

第4条 甲及び乙は、本協定の内容を変更する必要があると認める場合は、その都度協議するものとする。

(守秘義務)

第5条 甲及び乙は、本協定に関連して知り得た相手方の秘密情報について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に開示し、又は漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。なお、秘密情報とは、文書で秘密と明記したもの、又は口頭で秘密であることを伝えたものについては追って秘密であることを文書で明記したものとする。

(有効期間)

第6条 本協定の有効期間は、協定締結の日から令和2年3月31日までとする。ただし、有効期間満了の1ヶ月前までに、甲又は乙のいずれからも解約の申し出がない場合は、当該期間満了の日の翌日から起算して1年間、本協定を更新するものとし、以後もまた同様とする。

2 本協定を解除する場合は、甲又は乙のいずれか一方が解除予定日の1か月前までに書面により相手方に通知することにより、本協定を解除することができるものとする。

(その他)

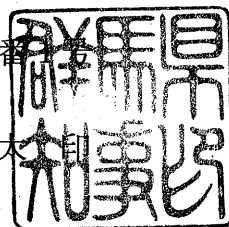
第7条 本協定の定めのない事項又は本協定に定める事項に関し疑義が生じた場合は、甲及び乙が協議して定めるものとする。

本協定締結の証として本協定書2通を作成し、甲乙署名捺印の上、各々1通を保有するものとする。

令和元年9月2日

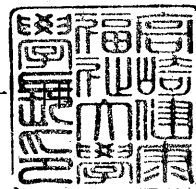
甲 群馬県前橋市大手町一丁目1番
群馬県

知事 山本 一夫



乙 群馬県高崎市中大類町37-1
高崎健康福祉大学

学長 須藤 賢一



高崎健康福祉大学と J A グループ群馬との 相互連携協力の推進に係る協定書

高崎健康福祉大学（以下、甲という）と J A グループ群馬（以下、乙という）は、相互の連携・協力することに合意し、次のとおり相互連携協力の推進に係る協定書（以下「本協定」という）を締結する。

（定義）

第 1 条 本協定において、乙とは単位農業協同組合を構成する組合員、単位農業協同組合、農業協同組合中央会、農業協同組合連合会をいう。

（目的）

第 2 条 本協定は、農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成を基本活動テーマとして、甲と乙が相互に協力可能な農業、地域社会等の分野における連携を深めることを目的とする。

（連携・協力事項）

第 3 条 本協定は前条の目的を達成するため、次の事項について連携・協力をする。

- ①群馬県の農業振興及び地域の活性化に関すること
- ②自然と人間社会の共生に向けた自然環境保全に関すること
- ③教育及び次世代型人材育成に関すること
- ④その他、本協定の目的を達成するために必要と認めて合意した事項に関すること

2 前項に規定する事項の具体的な内容については、甲と乙が協議したうえ定めるものとする。

（協議）

第 4 条 本協定の円滑な運用を図るため、毎年度定期的な協議を行うものとする。

2 甲と乙の連携担当部署〔事務局〕は、日常より情報の交換、連携を行うものとする。

（経費）

第 5 条 甲と乙が連携・協力して行う事業に関する経費については、甲と乙が協議のうえ定めるものとする。

（協定の見直し）

第 6 条 本協定の見直しは、甲又は乙のどちらかから、協定内容の見直しの申し出があった場合、甲と乙の協議の上、協定の見直しを行うものとする。

（協定の解釈）

第 7 条 本協定の解釈に疑義が発生した場合又は本協定に定めのない事項が発生した場合は、甲と乙が協議して決定することとする。

（反社会的勢力の排除）

第 8 条 連携・協力事項の実施にあたっては、反社会的勢力の排除及びコンプライアンスの遵守のほか、社会的責任を果たすための体制を整え、これを相互に尊重し行動する。

(秘密保持)

第9条 甲と乙は、連携・協力事項の実施にあたっては、守秘義務のある資料及び個人情報等については慎重に扱うものとする。

(有効期間)

第10条 本協定の有効期間は、協定締結日から1年間とする。

2 期間満了の日から30日前までに甲又は乙から協定を終了させる意思表示がない場合は、期間満了の翌日から1年間の自動更新とし、以後同様とする。

(署名)

第11条 本協定の証として、本書を2通作成し、甲と乙がそれぞれ署名する。なお、本協定書の署名における乙については、代表として群馬県農業協同組合中央会の代表理事会長がこれを行うものとする。

令和2年6月25日

甲 群馬県高崎市中大類町37の1番地
高崎健康福祉大学
学長

須藤 賢一

乙 群馬県前橋市亀里町1310番地
群馬県農業協同組合中央会
代表理事会長

大澤 憲一

農 第 30072-89 号

令和 3 年 2 月 4 日

学校法人高崎健康福祉大学

理事長 須藤 賢一 様

群馬県知事 山本 一太
(農 政 課)高崎健康福祉大学大学院農学研究科生物生産学専攻
博士前期課程・後期課程の設置に関する意見書

本県は大消費地である東京から 100km 圏の好立地や、恵まれた年間日照時間などにより、キャベツ、キュウリ、ナス等の野菜生産では全国上位を占めている。また、生産量が全国 1 位のコンニャク、全国 2 位のウメなどの産地であるとともに、果樹やイチゴなどでは観光直売も盛んである。一方で、全国的に農業従事者の高齢化と担い手不足が深刻な問題となっている中、意欲的な新規就農者の確保と労働力不足の解消に向けて、県では、先端技術を活用したスマート農業の技術開発や現地実証に取り組んでいる。また、本県の地域資源を活用した 6 次産業化や果樹等のオリジナル品種の開発・普及など、地域の強みを生かした農業を推進している。

このような中、貴大学は、令和元年度に県内初の農学部を開学し、最新の知見に基づく教育と地域に根ざした研究に取り組んでいる。令和元年 9 月には、本県と貴大学との間で「群馬県における農業振興及び 6 次産業化推進に係る連携協定」を締結し、農業振興及び 6 次産業化の推進に必要な研究と技術開発、それらを担う人材の育成について連携した取り組みを進めることとしている。さらに今後、大学院農学研究科を設置することで、高度な専門知識を習得した人材が育成され、スマート農業など高度な研究分野の技術開発や地域資源を生かした食品開発などで県との連携が一層進み、本県の農業振興や 6 次産業化の推進に大きく寄与することが期待される。

令和2年10月1日

学校法人高崎健康福祉大学
理事長 須藤賢一 殿

群馬県農業協同組合中央会

代表理事会長 唐澤 透



高崎健康福祉大学大学院農学研究科博士（前期・後期）課程設置に関する要望書

群馬県は大消費地である東京から100km圏の好立地や、全国第2位の恵まれた年間日照時間などにより、キャベツ、きゅうり、レタス、ほうれんそう等の野菜生産では全国上位を占めている。一方、全国的な産地間競争の激化の時代にあつて、本県産農産物のブランド力強化による高付加価値化が強く望まれており、そのための研究・開発、およびその成果を実践できる人材の育成が急務である。また、農業産出額の4割を畜産が占めるとともに、生産量全国第1位のこんにゃく、同第4位の小麦などの主産地でもある。しかし、農業従事者の高齢化と後継者不足は本県においても例外ではなく、意欲的な新規就農者の確保とともに、その意欲に応えるよう最新の知見・技術に根ざす新たな農業のあり方を提示することが強く望まれている。加えて、国連が主導する国際社会共通の目標である

「SDGs（持続可能な開発目標）」の時代にあつて、自然と人間社会の共生に向けた自然環境保全に基づく農業を基盤とした地域社会の発展と、それを支える技術・学術の振興ならびに人材育成が求められている。

このような認識に鑑み、群馬県農業協同組合中央会と高崎健康福祉大学は令和2年6月に、農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成を基本活動テーマとして、相互に協力可能な農業、地域社会等の分野における連携を深めるための「高崎健康福祉大学とJAグループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定書」を締結したところである。

高崎健康福祉大学は令和元年度に国公私立大学を通じて群馬県内初の農学部を設置し、上記をはじめとする県内農業の諸課題の解決や、一層の農業振興のための教育ならびに研究・開発に取り組んでいる。今後さらに大学院農学研究科を設置することは、上記協定書の精神をより具現化することにつながる。特に博士後期課程の設置は、群馬県の農業振興と地域活性化に、理論と実証研究を活かした即戦力となる次世代型人材育成のために必要であると関係者も切望するところである。

令和2年12月23日

学校法人高崎健康福祉大学
理事長 須藤 賢一 殿

群馬県食品工業協会
会長 市川 豊行



農学分野における食品関連産業者教育における大学院（博士前期課程・博士後期課程）の設置について（要望）

群馬県内にこれまで農学系の学部を擁した大学がなかったところですが、平成31年4月に高崎健康福祉大学に農学部が設置され、県内農業分野、食品製造業分野では貴学の発展を大いに期待しているところであります。

群馬県内では、こんにゃく芋をはじめとし、小麦、ネギ、キャベツ、キュウリ、大根、ナスなど数々の農産物を産出しており、農業産出額では全国上位にランク付けされています。またこれら収穫物を加工する食品製造業（こんにゃく加工業、製麺業、惣菜などの農産品加工業、および清酒醸造業）など、食にかかわる地場産業も多数存在しております。さらに当地は首都圏に近いこともあり、加工食品生産量も増える傾向にあります。

このような群馬県内では、貴学農学部に対し大きく期待し歓迎をしております。そんな中、貴学農学部を基盤とした大学院設置が予定されていると聞き及びました。大学院においては、地場産業との連携ばかりでなく、将来を見据えた発展的な研究も協力して進めることが可能となり、さらに地域連携を密にさせていただくことにより、地場の農業分野をはじめとし、食品製造業にも大きな味方を得ることになり、大学院の設置は大いに期待しているところであります。

今後、最新の研究の推進、さらに高度の技術習得や技術者教育にも期待しているところであり、大学院の設置を切に希望するところであります。

以上

高崎健康福祉大学大学院農学研究科に関するアンケート

高崎健康福祉大学では、2022（令和4）年4月に、大学院農学研究科「生物生産学専攻」（博士前期（修士）課程および博士後期課程）を開設すべく準備を進めています。この研究科では、既存の農学部生物生産学科の理念を拡充し、食と農に関わる諸課題を多様な観点から捉え、専門分野の方法論のみならず、学際的なアプローチも駆使してグローバルな視点から取り組むことができる人材の養成をめざします。

高崎健康福祉大学大学院農学研究科の開設について、皆様のご意見を伺いたく、アンケートを実施いたします。

以下のアンケートに回答をよろしくお願いいたします。

***必須**

1. 1. あなたの所属学部・学科を教えてください *

1つだけマークしてください。

- 農学部 生物生産学科
- 健康福祉学部 社会福祉学科
- 健康福祉学部 医療情報学科
- 健康福祉学部 健康栄養学科
- 薬学部 薬学科

2. 2. あなたの学年等を教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- 学部 1年生
- 学部 2年生
- 学部 3年生
- 学部 4年生
- 学部 5年生（薬学部のみ）
- 学部 6年生（薬学部のみ）

3. 3. 現在、本学で計画中の大学院農学研究科（博士前期（修士）課程・博士後期課程）について、興味がありますか。*

1つだけマークしてください。

- 大変興味がある
- 興味がある
- どちらとも言えない
- 興味がない

4. 4. 大学院農学研究科【博士前期（修士）課程】への進学を希望されますか。*

1つだけマークしてください。

- ぜひ進学したい 質問 5 にスキップします
- 条件が合えば進学したい 質問 5 にスキップします
- どちらとも言えない 質問 6 にスキップします
- 進学したいとは思わない 質問 6 にスキップします

進学希望者への追加 質問

【4の質問に対して、「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】

5. 5. 大学院農学研究科の博士前期（修士）課程への進学を希望される動機を教えてください。（複数選択可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい。
- 高度専門職業人として社会で活躍するためのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身に着けたい。
- 将来、研究者・技術者として働きたい。
- 学位（修士）を取得したい。

その他: _____

質問 6 にスキップします

博士後期課程への進学について

6. 6. 大学院農学研究科【博士後期課程】への進学を希望されますか。*

1つだけマークしてください。

- ぜひ進学したい 質問7にスキップします
- 条件が合えば進学したい 質問7にスキップします
- どちらとも言えない 質問8にスキップします
- 進学したいとは思わない 質問8にスキップします

進学希望者への追加
質問

【6の質問に対して、「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】

7. 7. 大学院農学研究科の博士後期課程への進学を希望される動機を教えてください。（複数選択可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい。
- 高度専門職業人として社会で活躍するためのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身に着けたい。
- 将来、研究者・技術者として働きたい。
- 学位（博士）を取得したい。

その他: _____

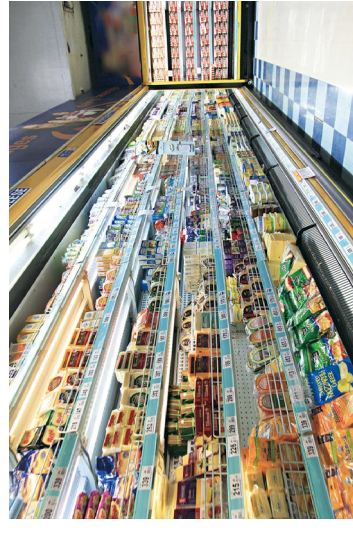
質問8にスキップします

意見・要望・提言等

8. 8. 新しく設置する大学院農学研究科に対して、その他、ご意見、ご要望、ご提言等がございましたらご自由にご記入ください。*

高崎健康福祉 大学大学院 農学研究科 (計画案)

高崎健康福祉大学では、大学院農学研究科を令和4（2022）年4月開設を目標として準備しております。
本学の学生に向けて現在の計画についてお知らせいたします。この内容はあくまでも令和2（2020）年の段階であり、認可申請に伴い内容が変更となる場合もあります。



高崎健康福祉大 学大学院 農学 研究科を設置予 定です。

群馬県の農業従事者育成、地域の活性化について既に認可されている農学部だけでなく、大学院を設置することでより高度な研究、専門的な授業を行うことができます。

本学では群馬県、JAグループ群馬といった群馬県内の農業関係団体と協定を締結しており、大学院設置については関係団体からの要望も多く、実現に向けて申請準備しております。

高崎健康福祉大学学生の皆様にとっても魅力ある大学院を目指しておりますので、アンケートにご協力ください。

高崎健康福祉大学大学院農学研究科(仮称)の設置に関するアンケート

高崎健康福祉大学では大学院農学研究科博士前期(修士)課程および同博士後期課程(いずれも仮称)の設置を計画し、令和4(2022)年4月の開設を目指して準備を進めております。群馬県様と本学とが令和元年9月に締結した「農業振興及び6次産業化推進に係る連携協定」においては、人材育成における連携が謳われているところであり、設置予定の本学大学院ではその一環として社会人を積極的に受け入れる所存です。この際、授業科目の開講時期や形態について柔軟に対応し、社会人大学院生の学修に配慮したいと考えております。また、職場経験を積んだ社会人の大学院生と身近に接することは、本学学部生や大学院生にとっても自らの研究や将来設計に対する大きな刺激となり、官・学のシナジー効果が期待できると考えております。一方、大学院設置のための文部科学省への設置認可申請においては、学生確保の見通しについて詳細な説明を求められることから、学部学生や関連する業界関係者など大学院入学の可能性のある方々に対するアンケート調査を行うことが一般的です。学部学生につきましては、本学在学学生を対象としたアンケートをすでに実施しております。そこで、群馬県様につきましても皆様の大学院進学に関するお考えをお聞かせいただきたく、本アンケート調査を企画いたしました。皆様ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、なにとぞ協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートで得られた情報は大学院設置認可申請の目的のみで使用します。

用語の説明

大学院博士前期(修士)課程

いわゆる修士課程のことで、原則として学部卒業者(学士)が入学し、通常2年間の修業で修士の学位を得ることができます。この段階で大学院を終えることも、さらに博士後期課程(以下に説明)に進むこともできます。

大学院博士後期課程

いわゆる博士課程のことで、原則として修士の学位を有する者が入学します。通常3年間の修業と学位論文審査により博士の学位を得ることができます。

(アンケート調査用紙 1/2)

1. あなたの現在の職種は以下のいずれですか。
 - 1) 行政
 - 2) 普及
 - 3) 研究
 - 4) その他 ()

2. 現在、本学で計画中の大学院農学研究科(博士前期(修士)課程・博士後期課程)について、興味がありますか。
 - 1) 大変興味がある
 - 2) 興味がある
 - 3) どちらとも言えない
 - 4) 興味がない


3. 大学院農学研究科【博士前期(修士)課程】への進学を希望されますか。
 - 1) ぜひ進学したい
 - 2) 条件が合えば進学したい
 - 3) どちらとも言えない
 - 4) 進学したいとは思わない

3. 大学院農学研究科【博士後期課程】への進学を希望されますか。
 - 1) ぜひ進学したい
 - 2) 条件が合えば進学したい
 - 3) どちらとも言えない
 - 4) 進学したいとは思わない

4. 【2または3の質問に対して、「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】
大学院農学研究科の修士課程または博士後期課程への進学を希望される動機を教えてください。(複数選択可)
 - 1) 食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい。
 - 2) 高度専門職業人としてのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身につけたい。
 - 3) 学位(修士または博士)を取得したい。
 - 4) その他 ()

(アンケート調査用紙 2/2)

5. 新しく設置する大学院農学研究科に対して、その他、ご意見、ご要望、ご提言等がございましたらご自由にご記入ください。



アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

高崎健康福祉 大学大学院 農学研究科 (計画案)

高崎健康福祉大学では、大学院農学研究科を令和4（2022）年4月開設を目標として準備しております。
本学の学生に向けて現在の計画についてお知らせいたします。この内容はあくまでも令和2（2020）年の段階であり、認可申請に伴い内容が変更となる場合もあります。



高崎健康福祉大 学大学院 農学 研究科を設置予 定です。

群馬県の農業従事者育成、地域の活性化について既に認可されている農学部だけでなく、大学院を設置することでより高度な研究、専門的な授業を行うことができます。

本学では群馬県、JAグループ群馬といった群馬県内の農業関係団体と協定を締結しており、大学院設置については関係団体からの要望も多く、実現に向けて申請準備しております。

高崎健康福祉大学学生の皆様にとっても魅力ある大学院を目指しておりますので、アンケートにご協力ください。

在学学生アンケート集計結果

表1: 回答者の所属学科・学年別内訳

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	現員	回答率(%)
健康福祉学部 医療情報学科	20	24	15	6			65	326	19.9
健康福祉学部 社会福祉学科	23	20	18	8			69	285	24.2
健康福祉学部 健康栄養学科	29	21	27	14			91	328	27.7
薬学部 薬学科	33	16	24	14	11	18	116	581	20.0
農学部 生物生産学科	90	81	0	0			171	195	87.7
計	195	162	84	42	11	18	512	1715	31.1

表2: 大学院農学研究科への興味について

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
大変興味がある	11	8	1	3	1	1	25
興味がある	47	30	7	8	1	1	94
どちらとも言えない	76	65	22	12	2	3	180
興味がない	61	59	54	19	7	13	213

表3: 大学院博士前期課程への進学意思について

博士前期課程への進学	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
ぜひ進学したい	1	0	0	0	0	0	1
条件が合えば進学したい	30	23	1	5	0	0	59
どちらとも言えない	65	42	11	5	3	2	128
進学したいとは思わない	98	97	72	32	8	16	323

表4: 博士前期課程に進学を希望する動機について

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい	17	14	1	5			37
高度専門職業人として社会で活躍するためのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身に着けたい	16	14	0	1			31
将来、研究者・技術者として働きたい	19	8	0	0			27
学位(修士)を取得したい	12	13	0	2			27

表5: 大学院博士後期課程への進学意思について

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
ぜひ進学したい	1	0	0	0	0	0	1
条件が合えば進学したい	20	13	1	5	0	0	39
どちらとも言えない	73	45	10	5	3	2	138
進学したいとは思わない	101	104	73	32	8	16	334

表6: 博士後期課程に進学を希望する動機について

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい	11	8	0	5			24
高度専門職業人として社会で活躍するためのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身に着けたい	10	9	1	2			22
将来、研究者・技術者として働きたい	10	5	0	1			16
学位(博士)を取得したい	9	10	0	2			21

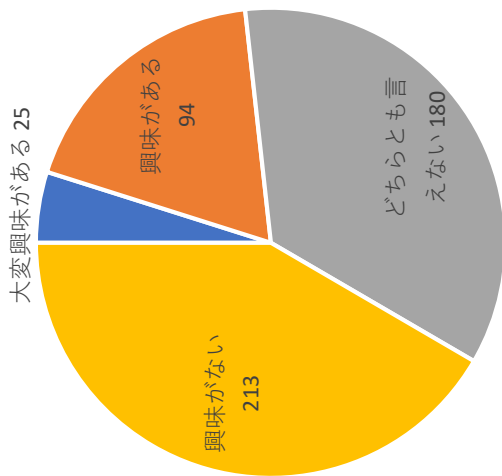
本学在学学生へのアンケート調査結果(概要)

所属学科・学年別回答者数

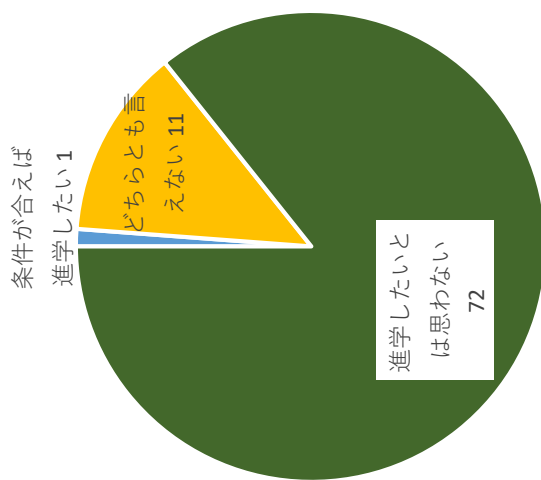
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	現員	回答率 (%)
健康福祉学部医療情報学科	20	24	15	6			65	326	19.9
健康福祉学部社会福祉学科	23	20	18	8			69	285	24.2
健康福祉学部健康栄養学科	29	21	27	14			91	328	27.7
薬学部 薬学科	33	16	24	14	11	18	116	581	20.0
農学部 生物生産学科	90	81	0	0			171	195	87.7
計	195	162	84	42	11	18	512	1715	31.1

※アンケートは令和2年10月5日～23日にかけてweb調査で実施した

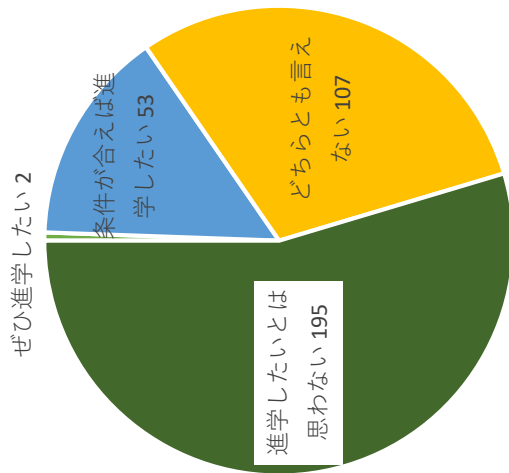
大学院農学研究科に対する興味



博士前期課程への進学意思 (3年生)



博士前期課程への進学意思 (学部1, 2年生)



群馬県農政部へのアンケート集計結果

表1:回答者の職種別内訳

行政	7
普及	10
研究	76
その他	4
計	97

表2:大学院農学研究科への興味について

大変興味がある	6
興味がある	41
どちらとも言えない	25
興味がない	25

表3:大学院博士前期課程への進学意思について

ぜひ進学したい	0
条件が合えば進学したい	5
どちらとも言えない	25
進学したいとは思わない	66

表4:大学院博士後期課程への進学意思について

ぜひ進学したい	0
条件が合えば進学したい	11
どちらとも言えない	26
進学したいとは思わない	60

表5:博士後期課程に進学を希望する動機について

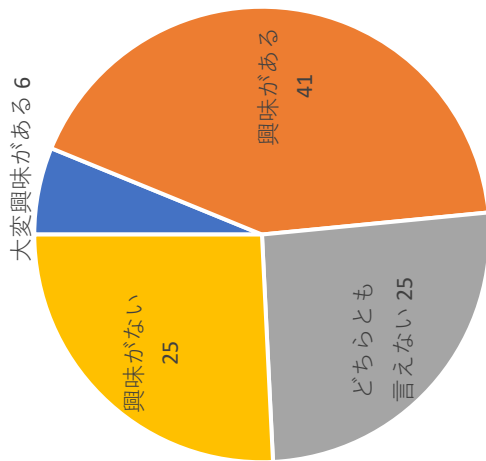
食と農に関してより深く、より高度な研究活動を行いたい	1
高度専門職業人として社会で活躍するためのより高度な知識・技術や高度で総合的な判断力を身に着けたい	6
将来、研究者・技術者として働きたい	3
学位(博士)を取得したい	3

群馬県農政職員へのアンケート調査結果(概要)

大学院農学研究科に対する興味

職種別の回答者数

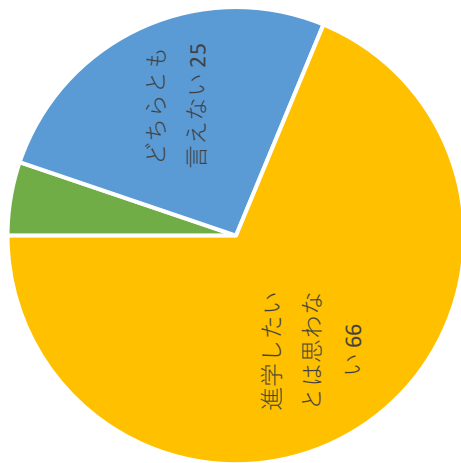
職種	回答者数
行政	7
普及	10
研究	76
その他	4
計	97



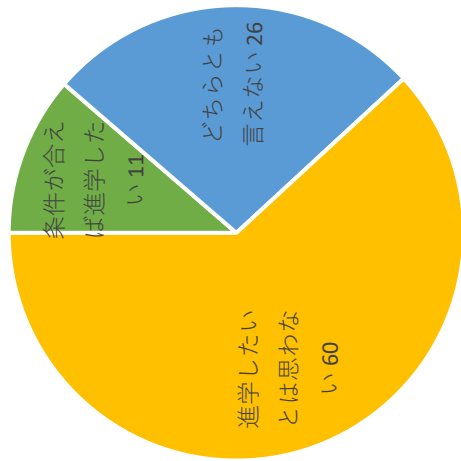
※アンケートは令和2年10月27日～11月25日にかけて実施した

博士前期課程への進学意思

条件が合えば進学したい



博士後期課程への進学意思



他大学大学院および本学農学研究科（予定）の初年度納付金の比較

大学・研究科	専攻	初年度納付金（総額）
玉川大学農学研究科	資源生物学専攻	1,380,235 円
東京農業大学農学研究科	バイオサイエンス学専攻	1,502,600 円
	食品栄養学専攻	1,480,600 円
	農学専攻	1,469,600 円
	農業経済学専攻	1,285,600 円
日本大学生物資源科学研究科	生物資源生産科学専攻	1,240,000 円
	生物資源利用科学専攻	1,240,000 円
	応用生命科学専攻	1,240,000 円
	生物資源経済学専攻	1,040,000 円
明治大学農学研究科	農学専攻	1,123,000 円
	農業経済学専攻	1,011,000 円
（本学農学研究科）	（生物生産学専攻）	1,002,470 円（予定）

注）2020 年度入学生の初年度納付額を各大学ウェブサイトから抜粋して記載

本学既設大学院および農学研究科（予定）の学生納付金

研究科	専攻	入学金	授業料	実験・実習料
健康福祉学	医療福祉情報学	100,000 円	700,000 円	
	保健福祉学	100,000 円	700,000 円	
	食品栄養学	100,000 円	700,000 円	200,000 円
薬学	薬学	100,000 円	700,000 円	200,000 円
保健医療学	看護学 (下記領域以外)	100,000 円	700,000 円	
	看護学 助産学分野 助産師養成領域	100,000 円	700,000 円	200,000 円
	理学療法学	100,000 円	700,000 円	
農学（予定）	生物生産学（予定）	100,000 円	700,000 円	200,000 円

注) 本学大学院修士課程もしくは博士前期課程から博士後期課程への進学者については入学金を徴収しない。

第1回 農学部セミナー

日本も世界も一緒に 元気になる“農”の取り組み

2019年

5月21日 (火) 16:30-18:00

10号館（農学部棟） 2階 202講義室

「コロンビアにおける稲作スマート農業の実践と 今後の展望」

－日本の最先端農業IoT技術の実施試験を例に－

講演者： 小川諭志（CIAT, 国際熱帯農業センター）

「～農村から世界の未来を育てる～」

講演者： 矢島亮一（NPO法人自然塾寺子屋）

「世界とつながる日本」

－マレーシアサバ州におけるアグロフォレストリー
の取り組み（JIRCAS国際プロ）－

講演者： 荒木陽一（高崎健康福祉大学）

お問い合わせ



農学部・作物園芸システムコース

清水 庸

shimizu-y@takasaki-u.ac.jp

第2回 農学部セミナー

in collaboration with 国際交流

異文化トーク

どなたでも参加可能です！

経験から学ぶ

「グローバル人材」

日時

2019年

6月3日 月 16:30-17:30

通訳有

10号館(農学部棟) 2階 205講義室

講演者

Dr. Parinaz Rahimzadeh (アメリカメイン大学)

「Life and Education Across the World :
A Personal Journey through Academic Life」

海外での生活と教育:研究者としての体験から

Dr. Parinaz Rahimzadeh

テヘラン大学(学部・修士課程)卒業後来日。2011年 東京大学大学院 博士課程を修了し、博士研究員としてカナダ ゲルフ大学で研究活動を行う。現在はアメリカメイン大学 (School of Forest Resources) にて教育、研究に携わる。

4か国で学び、生活する中で経験した、“異なる文化を理解する大切さ”や“社会に適応する力”について実体験を交えてお話いただきます。

グローバルリゼーションを肌で感じてきたParinazさんのおもしろ体験が聞けるかも！？



お問い合わせ

農学部 作物園芸システムコース: 清水 shimizu-y@takasaki-u.ac.jp

国際交流センター: 中島・沼沢 uhw-kokusai@takasaki-u.ac.jp

学生確保(資料) - 26

乳の科学は奥が深い！



清水 誠 先生

東京大学名誉教授
東京農業大学客員教授



日時：2019年11月1日（金）16：30-
場所：高崎健康福祉大学 6号館 101教室

講演内容

乳は動物に摂取されることを目的に作り出された唯一の食物です。**人乳**(母乳)は赤ちゃんが健康に育つことを可能にするための様々な成分を含んでおり、そこには母親から子供への情動の伝達機能まで備わっています。

一方、**牛乳**は仔牛の健康と成長に適した成分を含みますが、栄養価が高く、安全性や加工性に優れた食材であるために、いつの間にか人類にとっての主要な食物となり、**食品学**～**栄養学**～**健康科学**の分野においても中核的な地位を占めています。乳の研究からは、現在の生命科学の基盤となるような発見もたくさん生まれました。乳に含まれる驚きの成分やその働き、それらが社会に及ぼしたインパクトなどについて考えてみましょう。



本セミナーは、本学健康栄養学科の地域貢献事業の一つですのでどなたでも参加していただけます。事前登録などは必要ありません。

高崎健康福祉大学・大学院
栄養生理学研究室：下川 哲昭
問い合わせ：shimokawa-n@takasaki-u.ac.jp

第4回 農学部セミナー

来たれ！
公務員を目指す諸君

「群馬の農業を応援してみませんか」

- ・ 群馬の農業の特色と課題
- ・ 群馬県農政部の組織と仕事
～研究、普及、行政での経験を踏まえて～
- ・ 採用試験について
- ・ インターンシップ制度、等

農業の勉強もできますよ！

群馬県農政部 部長 吉野 努氏

日時：令和元年11月12日（火）16:30～18:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp

キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp

第5回 農学部 セミナー

農家のおじさんが育てた小麦で
作ったパンを見たことありますか？
～難しいからこそおもしろい。麦の地産地消に挑む！～

高橋 肇 先生

山口大学農学部教授

日時：令和2年1月24日（金）

13:00～14:30

場所：高崎健康福祉大学 10号館 203 教室



栽培・加工・食育など幅広い研究を実践されている
麦研究の第一人者である高橋先生に、山口県がチーム
一丸となって山口県内の学校給食で提供されるパンの
原料小麦県産100%達成について、いろいろな視点から
お話していただきます。

多くの方のご来場、お待ちしております！

【お問い合わせ】

農学部 作物園芸システムコース 作物学研究室

岡部 繭子：okabe-m@takasaki-u.ac.jp

学内の
どなたでも
参加できます

第1回 農学部セミナー

来たれ！

公務員を目指す諸君

「求む！ 群馬県農業の応援団員！」

～皆さんは、まだまだ、群馬県農業の魅力を知らない！～」

- ・ 群馬県農業の特色
- ・ 群馬県農政部の組織と仕事
- ・ 職員採用試験について 等

群馬県農政部 副部長 倉澤政則氏

日時：令和2年10月29日(木)16:30～18:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp
キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp

第2回 農学部セミナー

施設園芸におけるスマート農業
技術を勉強してみませんか。



施設園芸におけるスマート農業技術

～令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果から～

株式会社誠和 取締役 大出浩睦氏

日時：令和2年12月17日(木)16:30～18:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp
キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp



令和元(2019)年度 高崎健康福祉大学公開講座(ぐんま県民カレッジ連携講座)

地域に根ざす 健大農学部



日時
2020年 **2月8日** (土)
13:00 ▶ 15:30 (開場 12:30)

場所
高崎健康福祉大学10号館201講義室
定員
200名(お申込みは ハガキ・FAX・HP)

講座にご参加いただいた方には、講座終了後、そのまま農学部の見学をしていただければと思います。

I部:シンポジウム

講演 1 群馬県特産物の
新たな活用法
高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科
生命科学コース 教授 **外山 吉治**

講演 2 健大農学部を目指す新しい
スマートグリーンハウス
高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科
作物園芸システムコース 准教授 **石神 靖弘**

講演 3 日本最古の加工食品、
漬物の科学
高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科
フードサイエンスコース 教授 **松岡 寛樹**

講演 4 世界の日本食ブーム
—海外進出と輸出—
高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科
アグリビジネスコース 准教授 **齋藤 文信**

II部:パネルディスカッション

「地域に根ざす健大農学部」

コーディネーター 高崎健康福祉大学 農学部 学部長 **大政 謙次**

パネリスト 高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科
生命科学コース 教授 **外山 吉治**
作物園芸システムコース 准教授 **石神 靖弘**
フードサイエンスコース 教授 **松岡 寛樹**
アグリビジネスコース 准教授 **齋藤 文信**

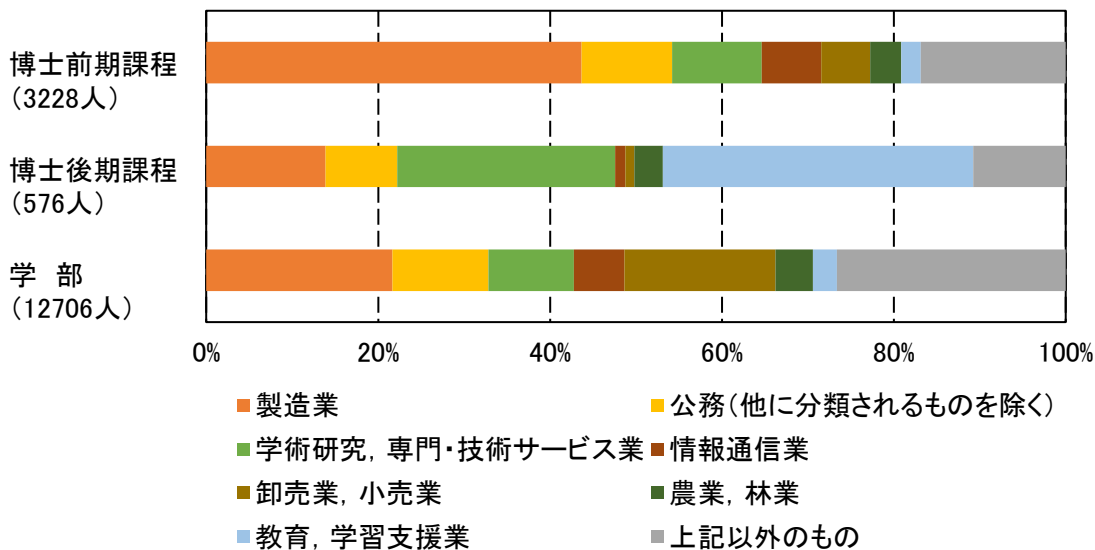
**参加費
無料**



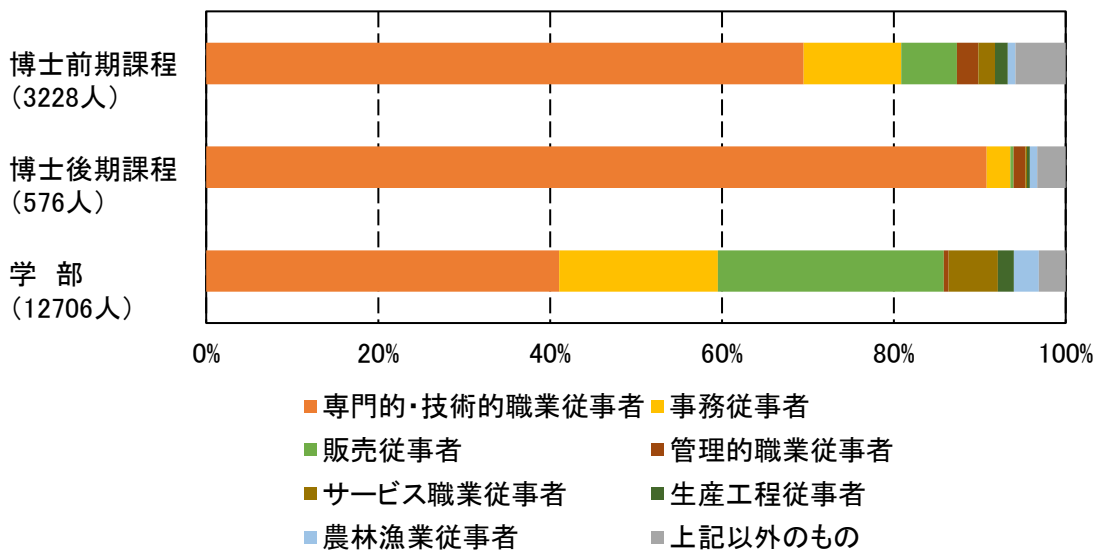
高崎健康福祉大学
Takasaki University of Health and Welfare

〒370-0033 群馬県高崎市中大類町37-1 お問い合わせ/高崎健康福祉大学公開講座係 TEL.027-352-1290
FAX.027-353-2055 URL▶<https://www.takasaki-u.ac.jp>

大学院修了者の産業別就業動向



大学院修了者の職業別就業動向



全国の農学系大学院生（平成31年3月修了）の産業別（上段）および職業別（下段）の就業動向

※令和元年度学校基本調査のデータから作図